

◆ 2020 年度 活動 報告 シ ー ト ◆

団体名：社会芸術・寺山支部 炭焼の会

23A-24

代表者：支部長 萩原 哲哉

URL : <https://artngo16.wixsite.com/socialart>

1. 活動が必要とされた状況

コロナ禍に巻き込まれ活動計画が大幅に狂い、ようやく夏になって、炭窯の空気漏れの修繕が行えた。漆喰（アルカリ性）は優秀であるが、木酢液（酸性）に弱いことが判明。

コロナ騒動は続き、公共施設の閉鎖に伴い多くの民間活動が停止する状況の中で、未来遺産・見沼たんぼ推進委員会と協議。他団体と協力して「野良の藝術 2021 天空と大地」（2021年1月8～11日）を企画・実施する。緊急事態宣言の発出の最中であつたが、この中に第二回炭焼、講演会、映像編集・放映、そして燠炭焼きを公開事業として実施できた。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

○炭窯補修 2020年8月25日・9月3日 会員6名 亀裂部を砂ズリの後、漆喰2回塗りし修繕。

○第一回炭焼 2020年10月16日～21日 さぎ山の炭窯／炭材：カシ 会員6名（来賓1計7名）：／窯出し10月30日 6名（来賓1計7名）

○「野良の藝術 2021 天空と大地」（公開イベント）さぎ山の炭窯（ファーム・インさぎ山）・加田屋新田（見沼ファーム 21）2021年1月8～11日、および2月6日（内容は以下4項）参加者延べ250名
・第二回炭焼（公開）2021年1月8日 さぎ山の炭窯／炭材：ケヤキ 会員6名 参加者20／窯出し1月16日 参加者20名
・映像編集・放映（公開）「農とともに 野良のアート」2021年1月8日 さぎ山の広場 参加者20名

・環境講演会（公開）「森林に委ねる環境保全」2021年1月8～11日 さぎ山の広場 講師：大槻忠男（木力館 館長）参加者20名
・燠炭野焼き（公開）2021年1月10日 加田屋新田（見沼ファーム 21）／炭材：籾殻 参加者50名（4日間の参加延べ人数250名）



炭窯修繕



講演会「森林に委ねる環境保全」
講師：大槻忠男



燠炭野焼き：加田屋新田

3. 活動の成果

炭焼は例年4回を目標としたが、2回に留まったものの、空気漏れの原因究明（アルカリと酸）がなされたことで、炭の焼ける原理探求が深められた。また、並行して燠炭を焼き、農園で使うことで、有機農が環境に負荷をかけないカーボン・ニュートラルを保ち、バイオ・チャーの役割から、カーボン・マイナスへ持ち込む方向が見えてきた。

「野良の藝術 2021 天空と大地」の実施は、予想以上の反響があり、両会場合わせて延250名の参加者で賑わった。

4. 今後に残された課題

漆喰は補修材として優秀であるが、木酢液に弱いことが判明。木酢液収集ダクト周辺の改造が必要になった。また、工具置場、収炭材、木酢液などの収納棚の整備・増設等のため、萩庵（炭小屋）に手を加える必要が出てきた。炭焼は百（100）姓（かばね）、大工の作業を伴う。さらに、炭と農を組み合わせ、環境保全を具体化する。